

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部 局 名	都市建設部		
	課 名	下水道課		
	係 名	工務係・計画係		
	記 入 者		電話(内線)	662

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	逆井調整池整備事業				(3) 事業の 優先度	A	
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市			
① 事業の区分	主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)		
② 施策コード	24106	(総合計画掲載ページ)		82	ページ)		会計区分	特別会計		
基本目標(政策)	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)						財源区分	国庫補助		
基本施策	2-4安全に暮らせる安心なまちづくり(防災・防犯・安全)						予算科目	款 1	項 2	目 1
施策	①防災対策の充実						予算書上の	逆井調整池整備事業費		
施策内容	6雨水の適正処理						事業名称	(予算書 356 ページに掲載)		
(5) 事業期間	開始	平成	26	年	4	月から	(8) 事務分類			
	終了			年		月まで (		力年)	自治事務	
					根拠法令		下水道法			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
公共下水道(雨水)西仁連川第一排水区域内(118.8ha)の市民	公共下水道(雨水)の整備を推進し、市街地の浸水を防止し、安全・安心な生活環境の確保を図る。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
西仁連川第一排水区雨水調整池(逆井調整池)114,700m3を整備する。 第一調整池33,000m3を先行整備(国庫補助事業)しその後第二～四調整池を段階的に整備する、	平成6年着手の北西部区画整理事業に伴い雨水調整池が必要となった整備が進まず、諸般の事情により下水道課で整備をすることになった。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応 近年、ゲリラ豪雨の増加により、ますます整備が望まれている。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映		
実施計画								
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）		
事業内容		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度		
(1) 事務事業費の コスト	事業費	不動産鑑定・土地評価	1,512					
		用地買収, 補償		105,214				
		基本設計	19,000					
		実施設計						
		調整池工事						
		合計	20,512	105,214				
	財源	国庫支出金 (千円)	2,700	21,600				
		県支出金 (千円)						
地方債 (千円)			83,600					
その他特定財源 (千円)								
一般財源 (千円)		17,812	14					
合計 (千円)		20,512	105,214					
補助・起債制度名		防災・安全社会資本整備交付金	防災・安全社会資本整備交付金・公共下水道事業債他					

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名		目標値						
		実績(見込)値						
		目標値						
		実績(見込)値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率			%	%		
		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率			%	%		

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	区画整理事業が進んでいるため、ますます必要性は高くなっている。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	行政以外には実施出来ない事業である。
	手段の妥当性	A	妥当である	現在のやり方が一般的であり、特に問題はない。
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	目的とした対象者に対しては、概ね広く便益を提供している。
有効性	成果の向上	A	上がっている	必要な法手続きを進めた。
進捗度	事業の進捗	A	順調である	必要な法手続きを進めた。

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

平成27年度に基本設計を実施したところ、地盤が軟弱で止水層が浅いところに無いことが分かり、地盤改良や止水矢板の施工費などが上乗せとなり総施工費が概算で80億円超となった。
補助対象となる33,000m3を第一調整池として防災安全交付金で先行して施工し、残りは段階的に整備せざる負えない。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

詳細設計において、事業費の削減を模索していく。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)	適正な雨水処理のため逆井調整池は必要不可欠であり、早期に事業着手しなければならない。当初予想を超える事業費が算定されたことから、国庫補助事業の積極的な活用を図るとともに、工法等の検討により、事業費縮減に努め、計画的に事業を推進する必要がある。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。